

報 医 人 世 々



目 次

- 巻頭言「何かおかしい」
気仙医師会副会長 岩手県立大船渡病院院長 瀧 向 透… 2
- 理事会報告 …………… 4
 - 令和元年度第 3 回理事会報告 …………… 4
- 随 想
「近況報告」
岩手県立高田病院 副院長兼小児科長 大 木 智 春… 6
- 各科のトピックス…「爪白癬について」
医療法人おいかわ 及川皮膚科クリニック
院長 及 川 東 士… 7
- 令和元年度東日本大震災復興支援岩手県医師会野球大会… 9
- 石木幹人先生「若月賞」受賞祝賀会並びに
岩手県医師会野球大会慰労会… 11
- 令和元年度「救急の日・消防・警察フェア」…………… 12
- 第30回岩手県医師会親睦ゴルフ大会 …………… 13
- 計 報…………… 14
- 事務局日記 …………… 15
- 編集後記 …………… 16
- 表紙のことば …………… 16



第 1 5 1 号
2019. 10. 25

気 仙 医 師 会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目 6 - 1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

巻頭言



「何かおかしい」

気仙医師会 副会長
岩手県立大船渡病院 院長

透 向 洩

先日東北厚生局が行う施設基準等の適時調査が当院であり、緩和ケア診療加算、外来緩和ケア管理料について常勤医師の要件を満たしていないことが指摘され自主返還することになりました。緩和医療を担当する医師が近くの病院でも同等の医療が受けられるように週1回半日診療応援していたことが、常勤医師配置の要件に反していると判断されたことです。施設基準でいう常勤医師は原則として病院で定めた勤務時間のすべてを自院で勤務するものと規定されており、診療応援等を行うことは認められていないということです。今回は気仙地域のどこに住んでいても緩和治療を受けられるようにしたいと配慮したことで常勤医師の規定に反することになりました。この規定に関しては昨今女性医師の増加、働き方改革等との関係から他でも問題となっており、平成30年診療報酬改定から小児科・産婦人科・精神科・リハビリテーション科・麻酔科等の領域についてはその要件が緩和されていますが、まだまだ不十分のように感じます。

気仙地域のように医師の少ないところの医療体制を考えるとときに重要となるのは、今いる少ない医療者、医療機関が如何に連携し役割分担していくかであり、都市部とは違った施設基準等の解釈が必要と強く思います。

随 想



「近況報告」

岩手県立高田病院 副院長・小児科長

大 木 智 春

今年度で岩手県に来て17年目になります。今年は震災9年目ですから震災後にすごした年数の方が長くなって今まで住んだことのある都道府県の中でも一番長く過ごした県になりました。それまでは山口大学のある山口県が一番長く過ごした県でした。

震災後の8年余という年月は私にとってもめまぐるしいものでした。米崎コミュニティーセンターでの避難所生活とそこでの救護所活動、その後米崎町の仮設病院での診療。そして昨年3月には陸前高田市高田町の高台に念願の新病院が完成、電子カルテも導入されました。住居は住田診療センター内の仮設住宅、市内小友町の借り上げ公舎を経て今は新病院の公舎に入居しています。最初ほとんど何もなかった（山を切り崩した）高台にある病院周辺にも陸前高田市の保健センターができ、今年の8月には高田小学校も移転してきました。陸前高田市の体育館の夢アリーナも徒歩圏内にあります。それまでは市内のあちこちにばらばらに建てられた仮設のお店もアバッセ周辺に集まってきました。9月には国道45号線沿いに道の駅も完成し市内の景観は随分と変わりつつあります。少し前までは街の復興はまだまだだと思っていましたが、最近は少しずつ街も復興しているのだと実感できるようになってきました。陸前高田市が以前とは違う新しい町になっていくことへの少しさみしい気持ちもあるのですが自分の気持ちも少しずつ前に進めていかなくてはと思います。

ところで震災後しばらくたってから気持ちを切り替えるために新しくはじめたものがあります。（自分自身の健康のためもあります）。震災の2年後くらいから少しずつ卓球を始めたのです。子どもの時に遊びでやったことはありましたが、最初のころはルールもろくすっぽ知らない全くの初心者でした。よき指導者には恵まれましたが、なかなか思うよ

うには上達しません。今でも試合ではほとんど勝てませんが、あまり勝ち負けにはこだわらないでこれからも楽しく続けていこうと思っています。

これからも諸先生方にはご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。

各科のトピックス

「爪白癬について」

医療法人おいかわ 及川皮膚科クリニック 院長 及川 東 士

白癬は、白癬菌というカビ（真菌）が皮膚の外側の層（角層）に感染・増殖して起こる。そして、白癬菌が、直接触れることで感染する。この白癬菌が爪にはいると、爪白癬となる。爪が部分的に白濁し、進行すると爪甲は肥厚し、ボロボロになってくる。診断は顕微鏡検査を行う。皮膚の表面の角質が剥がれた部分（鱗層）を採取し、水酸化カリウムで溶かして、顕微鏡で白癬菌と確認し診断する。患者さんが、自己判断で抗菌薬を塗布してくる場合があるが、この場合、診断がつきにくくなることもある。

現在、日本人の4人に1人が足に何らかの白癬を有し、5人に1人（約2500万人）が足白癬。10人に1人（約1200万人）が爪白癬に罹患していると言われています。

爪白癬は足白癬のように、かゆみ等の自覚症状がないため、診察で初めて爪白癬に罹患している事を知る患者さんも少なくありません。そのため、治療をせずに放置してしまっている患者さんも多いのが、現状です。

しかし、爪白癬を放置していると、足白癬の感染源でもあるため、いくら足白癬の治療をしても、再び、爪から再度感染してしまいます。また、菌をまき散らすことになり、家族内や入浴施設等、様々な施設内で感染を広げてしまいます。さらに、糖尿病や透析中の患者さんでは、白癬が悪化することで蜂窩織炎や壊死に至ることもあります。これらのことや美容的な面からも、爪白癬は必ず治療すべき疾患であります。

爪白癬の治療は、従来は経口抗真菌薬しか適応を有しておらず、内服療法が中心となっていました。しかしながら、薬物相互作用や肝機能障害により内服治療ができないとか、あるいは、内服を望まない患者さんも多くいるため、従来の外用抗真菌剤で対応するしかありませんでした。しかし、従来型の外用抗真菌剤の単純塗布では、ほとんど効果は見られませんでした。

ところが、2014年に日本初の外用爪白癬治療剤「クレナフィン®爪外用液10%」が発売されたことで、爪白癬治療の流れが大きく変わりました。クレナフィン®は爪白癬治療に特化して開発された外用抗真菌剤です。従来の外用抗真菌剤は、爪を透過しませんが、クレナフィン®は爪の主成分であるケラチンとの親和性が低く、爪甲での透過性に優れており、爪甲内、爪床で高い抗真菌活性を發揮します。

クレナフィン®はハケとボトルが一体型となっており、薬液を爪面に容易に塗り広げることが可能です。1日1回罹患爪全体に塗布することで、爪白癬に対し治療効果を發揮します。

爪白癬治療は、長い期間を必要とするため、外用剤・経口剤ともに途中で治療を諦めてしまう患者さんもいます。人によって、また、罹患部位等によって治り方が異なることもあるため、なかなか効果が目に見えないケースもあります。そういった症例でも、早々に諦めることなく、治療を続けることが重要です。

東日本大震災復興支援岩手県医師会野球大会2019

- 開催日：令和元年8月25日（日）
- 会場：花巻東高等学校グラウンド（主会場）
- 懇親会場：ホテル花巻
- 報告者：気仙医師会チーム監督

いとう耳鼻咽喉科クリニック院長 伊藤俊也

今年の野球大会は花巻医師会の担当で花巻東高校グラウンドを主会場に行われました。例年通り戦力不詳のまま不安を抱えての参加となりましたが、メンバー全員集合し無事開会式を迎えることができました。

当医師会は今年も懇親ブロックに参戦し、F会場の花巻中学校グラウンドで予選2試合を行いました。初戦は昨年ジャンケン大会決勝で敗れた盛岡市医師会との対戦となりました。初回の守り、先発ピッチャーの星田が制球に苦しみ満塁とされ押し出しで2点を与え、たまたまレフトの福原に交代するも制球難が続き苦しい展開でしたが2点に抑えきり、裏の攻撃でなんとか2点をあげ同点としました。続く2回の守りでも制球難で満塁とされたため、止む無く研修医の佐藤にピッチャー交代、何とか3点で切り抜け、4-2で迎えた2回の裏、ファールボールとデッドボールで何とか出塁し満塁としたところで、4番星田が会心のエンタイトルツーベースヒットを放って同点に追いつき、最後はファールボールの押し出しで5-4のサヨナラ勝ちとなりました。

続く第2試合は二戸医師会チームと対戦しました。先発は佐藤、初戦より球が走って調子は良かったのですが、相手チームの強力打線につかまり初回3点を奪われ、攻撃では相手のエースピッチャーの速球に封じ込められ三者凡退。2回にも加点され5-0のビハインド、裏の攻撃で意地の2点を返すも5-2で負けとなりました。結局予選ブロックは1勝1敗で予選リーグ2位通過となりました。



午後1時より花巻温泉千秋閣にて懇親会が開催されました。恒例の優勝決定ジャンケン大会に向けて鈴木先生と横澤先生のお子さん3人を引き連れ準備万端会場入りしたのですが、なんと今年はジャンケンではなく、ご当地名物のわんこそば大会で決定戦を行うとのアナウンスがあり皆啞然。予選1位には20杯、2位には10杯のアドバンテージが与えられ、各チーム3名の代表（食士）が壇上にあがり、一人2分間で食べた杯数の合計で順位を争うという花巻ルールで行われることになりました。当チームは若手3名（横澤、石川、福原）の食士を送り込み、アンカー福原の猛烈な追い上げ（66杯）によりトータル、174杯で見事3位入賞となりました。優勝は181杯の花巻医師会チーム、準優勝は180杯の盛岡医師会チームでした。

今年の試合結果は表の通りで、勝負ブロックは北上医師会チームが優勝、準優勝は久慈医師会チームとなりました。表彰式では小原県医師会会長より3位の表彰状を頂きました。来年は遠野医師会の担当で開催されます。来年こそ気仙に優勝旗を持ち帰りしたいと思います。

当医師会のチームメンバーは以下の通りです。

（投）星田 徹、（捕）鈴木 忠、（一）鳥羽 有、（二）吉澤 徹、（三）佐藤 慎、（遊）富澤優太、（左）福原 聡（中）山浦玄悟、（右）横澤友樹、（補）石川秀太、菊池彩加、（監督）伊藤俊也



石木幹人先生「若月賞」受賞祝賀会 並びに東日本大震災復興支援岩手県医師会野球大会慰労会

9月13日（金）午後7時から大船渡プラザホテルにおいて、石木幹人先生「若月賞」受賞祝賀会が岩手県医師会野球大会慰労会も兼ねて盛大に開催されました。

前県立高田病院長で、現在は陸前高田市国民健康保険二又診療所長を務める石木幹人先生は、全国の保健医療分野で草の根的に活動する人を顕彰する第28回若月賞に選ばれました。

若月賞は、長野県佐久市の佐久総合病院を育て、農村医療を確立された故・若月俊一医師にちなみ、平成4年に創設されました。

受賞された石木幹人先生は、平成16年に県立高田病院に赴任され、高齢者に対する健康維持のための啓発活動や全職員が入院患者にかかわる体制づくり、更には、介護のための地域連携といった取り組みを進めるとともに、「高齢者にやさしい病院をつくる」として、病院が果たす役割を明確にし、その意識を職員、患者らと共有することで病院経営の改善なども実現されました。

東日本大震災では、高田病院が被災し、患者や職員、家族を失いながらも先頭に立って市内全域の医療体制の回復に努められました。

また、避難所におけるエコノミー症候群の予防啓発をはじめ、病院事業として、農園づくりを推進するなど仮設住宅に居住する方々が体を動かし、生きがいを見出せる活動にも取り組んできたことが評価され、今回の受賞となりました。

祝賀会では、出席された先生方からの祝福の声掛けに、本人も改めて喜びのひと時を過ごしていました。

石木幹人先生「若月賞」受賞祝賀会





令和元年度

「救急の日・消防・警察フェア」のイベント開催される

9月7日（日）、大船渡消防署が主催となり、気仙医師会をはじめ岩手県立大船渡病院、大船渡保健所、大船渡警察署、大船渡市役所、未来かなえ機構が共催する「救急の日・消防・警察フェア」が大船渡市防災センターを会場に開催された。

このイベントは、厚生労働省と消防庁が制定した「救急の日」9月9日の活動の一環として救急医療及び救急業務について、住民の正しい理解と認識を深めると同時に、救急医療関係者の意識高揚を図ろうと例年開催しているものです。

当日は、主催者を代表して大船渡消防署千葉仁一署長のあいさつに続き、一日救急隊長への委嘱状交付が行われ、その後、岩手県立大船渡病院小児科角掛和音先生から、「小児救急について」と題して講演が行われた。

医療講演終了後は、救命救急士等の指導のもと心肺蘇生法やAED操作を学んだほか、はしご車への搭乗や濃煙体験、放水体験、そして岩手県防災航空隊と大船渡消防署との合同訓練などの実演を見学した。その他にも各種展示コーナーが設けられ参加した多くは親子連れで楽しい一日を過ごしていました。

なお、当日は65組180名の参加であった。





第53回岩手県医師会親睦ゴルフ大会

- 開催日：令和元年9月22日（日）
- 会場：一関カントリークラブ

令和元年9月22日（日）、一関カントリークラブを会場に、第53回岩手県医師会親睦ゴルフ大会が開催されました。

今年度は、一関医師会と気仙医師会との合同担当で行われたもので、参加された選手は総勢で89名、気仙医師会からは伊藤俊也先生、石倉功一先生、吉澤徹先生の3名が参加されました。

天気予報では当日雨の予報でしたが、どんよりとした天候で肌寒かったもののプレー中は雨にも当たらず、参加された選手の中には半そで姿の方もチラホラ、プレーヤーの皆さんはこの日とばかりに大いにハッスルしていました。

表彰式は午後2時から始まり、壮年の部で伊藤俊也先生が5位、石倉功一先生が11位、青年の部で吉澤徹先生が5位と活躍されました。

また、来年度は、花巻市で行われることが報告され、最後に会長代理で出席された当医師会の岩淵正之副会長から閉会のあいさつがあり、ゴルフ大会が無事終了しました。



— 訃 報 —



いいだ たみ つぐ
飯 田 民 次 先生

令和元年 9 月 20 日 ご逝去

享年 85 歳

(生年月日 昭和 9 年 9 月 28 日)

学 歴

昭和 28 年 3 月 宮城県立気仙沼高等学校卒業
昭和 29 年 4 月 国立山形大学理学部入学
昭和 32 年 4 月 岩手医科大学専門課程入学
昭和 37 年 4 月 岩手医科大学大学院入学

職 歴

昭和 37 年 4 月～41 年 6 月 岩手医科大学産婦人科助手
昭和 41 年 7 月～42 年 6 月 山形県八幡町立病院産婦人科科長
昭和 42 年 7 月～44 年 3 月 岩手県立東和病院産婦人科科長
昭和 44 年 4 月～平成 9 年 3 月 岩手県立大船渡病院産婦人科科長
昭和 51 年 4 月～63 年 3 月 岩手医科大学医学部非常勤講師
平成 9 年 4 月～平成 11 年 3 月 岩手県立釜石病院副院長兼産婦人科科長
平成 11 年 4 月～平成 23 年 3 月 飯田レディースクリニック開業
平成 23 年 5 月～平成 29 年 12 月 医療法人勝久会介護老人保健施設気仙苑

役 員 歴

平成 8 年 4 月～9 年 3 月 気仙医師会 監事
平成 11 年 4 月～14 年 3 月 気仙医師会 理事
平成 16 年 4 月～22 年 3 月 気仙医師会 監事

表 彰 歴

平成 22 年 11 月 大船渡市政功労者表彰 (民生功労) 受賞
平成 29 年 11 月 岩手県医師会総会表彰 (地域医療功労) 受賞